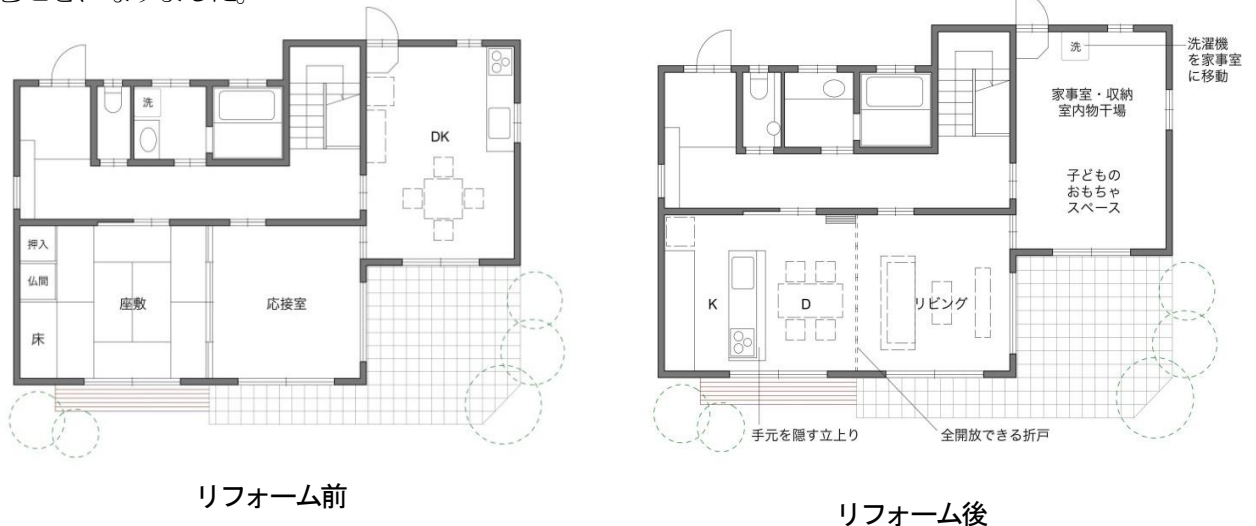


3. 事例紹介

(1)子どもが安全に過ごせるためのリフォーム

2歳の男の子と30代の夫婦の3人家族が住む一戸建て住宅のリビングを中心としたリフォーム事例です。築約35年になる夫の実家をリフォームしました。それまではマンション住まいでしたが、実家に住んでいた夫の両親が隣接して建つ離れに移動したことから、全面的にリフォームして新たに住むことになりました。



リフォーム前は、玄関から入ってすぐの日当たりの良い位置に座敷と応接室が設えられ、奥にキッチンのあるいわゆる接客重視のプランでした。改修後は、応接室に隣接する和室をダイニングキッチンに変更し、対面キッチンにすることにより、キッチンからリビング、庭まで見渡せるようにしました。

従前の和室は応接室より床の高さが一段高くなっていましたが、新しいダイニングキッチンは床の高さをリビングに合わせて一体としました。リビングとダイニングキッチンとの間には全開放できる折戸を設け、来客によってはダイニングキッチンを隠すこともできるようにしました。折戸は通常開け放しており、邪魔にならないように下レールの無い吊り下げタイプの建具を使用しました。

従前のキッチンは、部屋干しのできるスペース等を設け、家事室を兼ねた広い収納スペースとしました。急な来客時には、リビングに出た子供のおもちゃや雑多なものを一時的に隠すスペースにもなります。



(2)家族が快適に暮らせるための団地

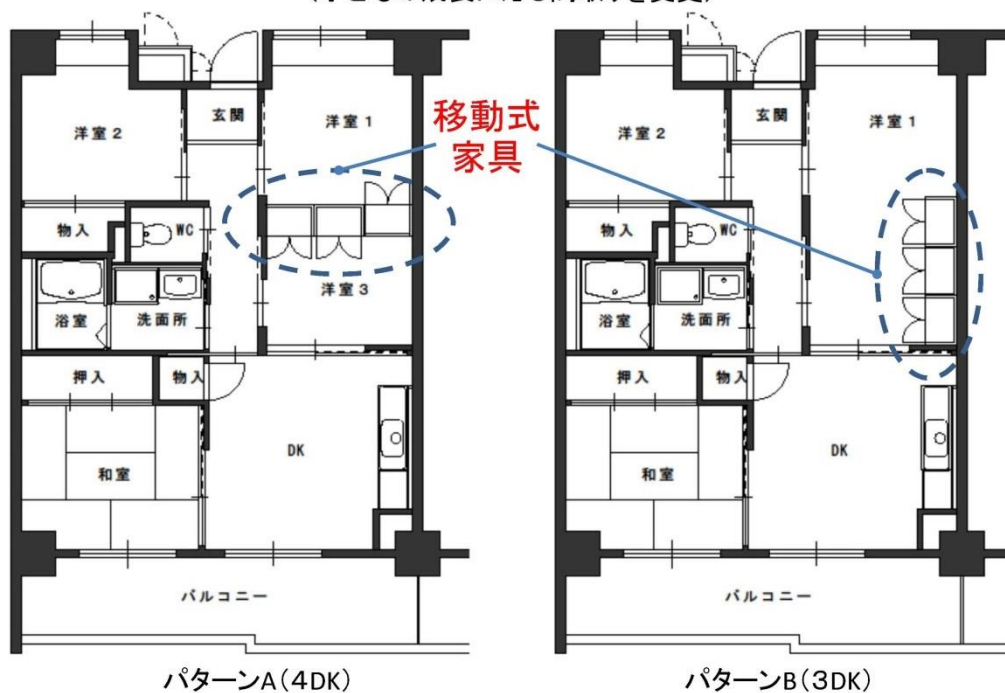
宇治市にある府営住宅榎島大川原団地（愛称：なごみりあ榎島）は、府営住宅、社会福祉施設（認知症高齢者グループホーム、知的障害者グループホーム、小規模多機能施設等が開設）を一体的に整備することにより、住民の交流や良好な地域コミュニティの形成等、周辺地域のまちづくりへの貢献を図ることを目的とする新しいタイプの団地です。ここでは、子育て世帯に配慮した住戸の整備も行われています（30戸）。この特徴は、子どもの成長に応じて間取りを変更できる「移動式家具」を導入しています。移動が容易な間仕切りになる家具を導入することで、部屋の可変性を可能にしています。

また、集会所には、子ども用便器やベビーチェアを備えており、住まいだけでなく敷地内でも気軽に出かけられるような工夫がされています。



集会所のトイレ

子育て対応住戸 (子どもの成長に応じ間取りを変更)



部屋の間仕切りとして使用した場合



部屋の片側に寄せた場合

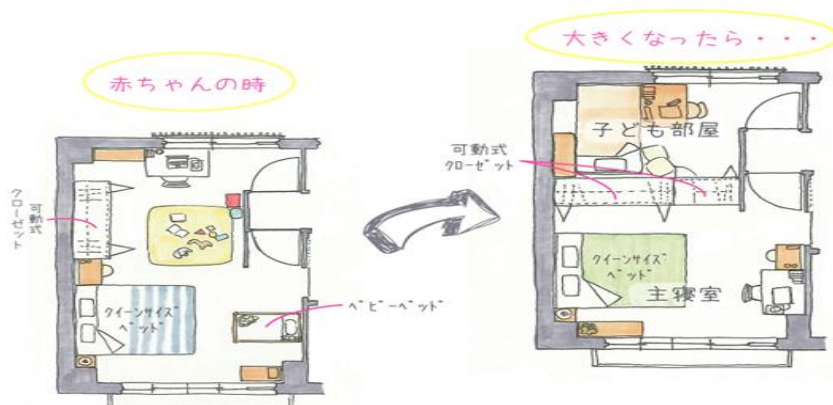
(3)子育て世帯が安心して暮らせるための団地リノベーション

再生工事が進められた堀川団地（3階建）（京都市上京区。京都府住宅供給公社）では、「多世代の方が一緒に住んで豊かなコミュニティを形成する」ことが期待されており、そのため、従来の2戸の間仕切りを撤去し1戸とし、面積の広い子育て世帯向け住戸が整備されました。

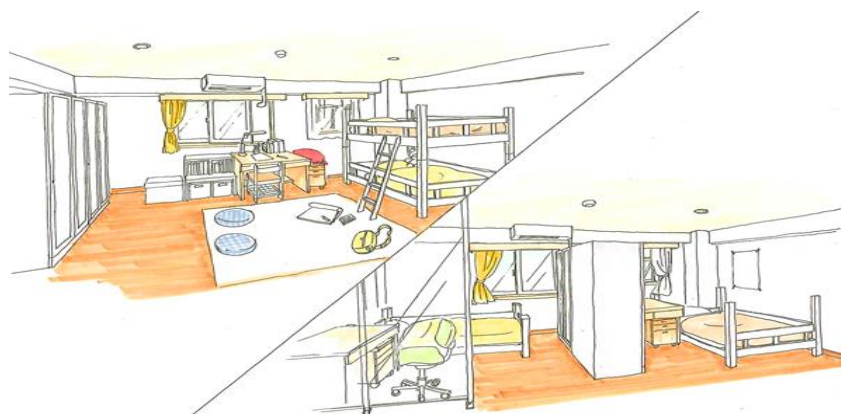
特徴は、以下の3点です。

1) フレキシブルな間取り

部屋の家具の配置を換えることで、家族のライフステージに応じた間取りに変更可能



寝室と、赤ちゃんのプレイルーム。
子どもが大きくなったら、可動式クローゼットで仕切って勉強部屋に。



仲よし姉妹のお部屋も、成長に合わせて一人部屋に。
勉強や部活で忙しい毎日でも、それぞれが独立した時間を過ごせます。

2) 便利な共用スペース

団地の階段は段差が低く小さな子どもでも昇り降りしやすい階段ですが、買い物やベビーカーでの移動に嬉しいエレベーター（二人用のバギーも可能）が付いています。また、安全な子どもの遊び場として、2階には日当たりのいい広いウッドデッキがあります。見通しがよく、車も通りませんので安心して子どもたちを遊ばせておくことができます。



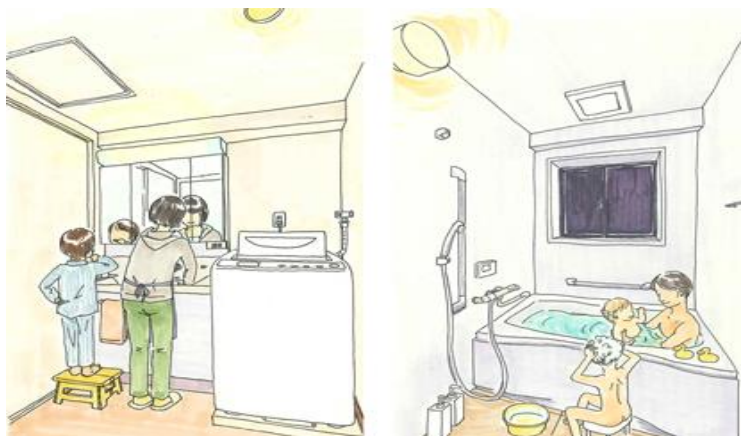
子どもたちの遊び場となるウッドデッキ



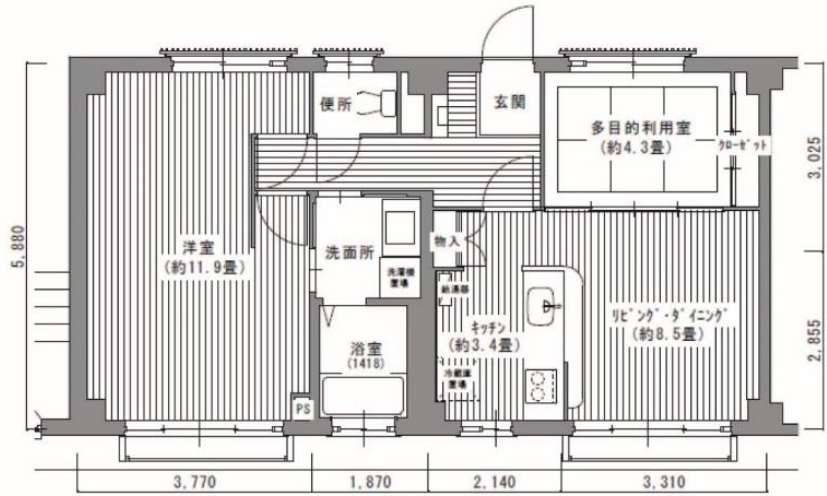
二人用バギーも乗車可能なエレベーター

3) 家族で使える設備

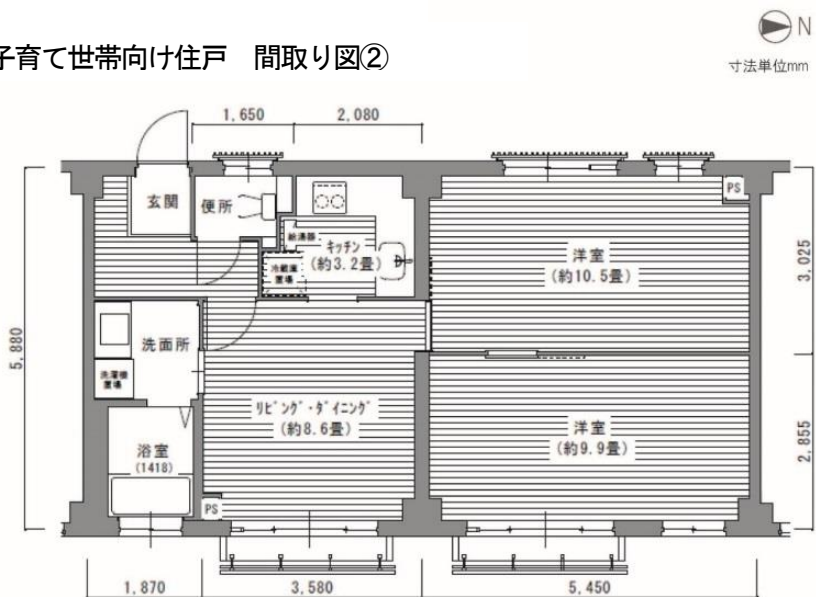
浴室や洗面所は家族で一緒に使える、ゆったりとした広さ。浴室に続く洗面所の入口は小さな子どもの事故防止のために鍵をかけることができます。洗面化粧台はワイドな90センチ幅で、シャワーが付いています。鏡の裏側に収納もあり、いろいろ使えて便利でお手入れも簡単です。このほかにも、カメラ付きインターフォン、室内干しができる天吊物干し金物など、従来の団地にはない「子育て世帯」に向けた配慮をしています。



子育て世帯向け住戸 間取り図①



子育て世帯向け住戸 間取り図②



【設計のポイント】

- ・玄関の上りがまち以外は室内全てフルフラット (間取り図①②)
- ・キッチンは対面とし、リビング・子どもの遊び場となる多目的利用室の見通しを確保 (間取り図①)
- ・多目的利用室には琉球畳を敷き、子どもの遊ぶ音が騒音とならないよう配慮(間取り図①)
- ・洗面所入り口は施錠できるようにし、水周りでの子どもの不慮の事故を防ぐ (間取り図①②)
- ・子どものトイレトレーニングを助ける幅広の便所 (間取り図①②)
- ・洗面所は2 ウェイアクセスで利便性を向上 (間取り図①)
- ・子どもと一緒に入れる、ゆったりとした浴室と並んで使える洗面台 (間取り図①②)
- ・玄関、便所、洗面には将来に備えて手すり下地を準備 (間取り図①②)

(4)子育ての住まいリノベーション

昭和 40 年代に建設された独立行政法人都市再生機構の男山団地の住戸は、関西大学からの設計提案により、子育て層にも優しい特徴あるリノベーションを施しています。

1) のびのびしたプランニング

団地の魅力である、南北の抜けを意識しながら 3つのコンセプトで施行。

- (1) 大きな一つの空間を必要に応じて区分
- (2) 気持ちよく立てるキッチン
- (3) 明るく気持ちのいいサニタリールーム

2) 見守り、感じられるプランニング

「キッチンから見える。」「気配を感じられるひとつながりの空間」など、少し離れた場所に居ても、安心感を抱けるような空間構成。

